

研究・調査報告書

報告書番号	担当
183	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名（原題／訳）：	
<p>Assessing pregnant women's compliance with different alcohol guidelines: an 11-year prospective study. 妊婦のアルコールガイドライン順守状況について－11年間の前向きコホート研究における検討</p>	
執筆者：	
Powers JR, Loxton DJ, Burns LA, Shakeshaft A, Elliott EJ, Dunlop AJ.	
掲載誌（番号又は発行年月日）：	
Med J Aust. 2010 Jun 21;192(12):690-3.	
キーワード：	
妊婦、飲酒、ガイドライン、順守状況	
要 旨	
<p>目的： 妊婦を対象とした飲酒に関するガイドラインの順守状況に及ぼす影響を検討する</p> <p>方法： 22歳から33歳の地域住民女性を対象として、ガイドライン上、妊婦のアルコール飲酒量はゼロ（非飲酒）が推奨されていた2001年10月までに妊娠した女性419人と、少量飲酒（一日2杯まで、1週間7日未満）が推奨された2001年10月以降の初妊婦829人について検討した。データは1996年、2000年、2003年、2006年にAustralian Longitudinal Study on Women's Healthとして収集された。ポアソン回帰モデルにて、非飲酒、少量飲酒とガイドラインの順守状況の多変量調整オッズを算出した。</p> <p>結果： ガイドライン上、妊婦の飲酒について飲酒量ゼロ（非飲酒）および少量飲酒のいずれが推奨されている場合でも、妊婦の80%が飲酒していた。飲酒量ゼロ（非飲酒）のガイドラインの順守率は2001年10月までの妊婦が20%、2001年10月以降の妊婦は17%、少量飲酒のガイドラインの順守率は2001年10月までの妊婦が75%、2001年10月以降の妊婦は80%であり、いずれも統計的に有意な差を認めなかった。90%以上の女性が妊娠前に飲酒しており、妊娠前の飲酒状況が少量飲酒であれ、妊娠期の飲酒状況に大きな影響を与えていた。ガイドラインの順守状況は、飲酒量（非飲酒）が推奨されたガイドライン期（2001年10月まで）の妊婦と比較すると、少量飲酒が推奨されたガイドライン期（2001年10月以降）の妊婦では3.54倍高かった。</p> <p>結論： 2001年10月の妊婦の飲酒量ガイドラインの変更は妊婦の飲酒行動に変化をもたらさなかった。妊娠期の飲酒量とリスクについてはさらに解明をすすめ、飲酒量とその危険性について啓発する必要がある。</p>	